

「2024年中国・浙江大学スプリングスクール派遣報告書」

京都大学法学部2年 深坂 正太

今回の短期留学は、私にとって非常に有意義な経験だった。特に中国語能力の向上と国際理解の深化、そして進路に対する新たな視点の獲得という点で、大きな成果をもたらした。

今回のプログラムに参加する前は、自身の中国語能力に対してある程度の自信はあったものの、実際に現地で通用するかどうかについては不安があった。しかし、浙江大学での授業や現地の学生との交流を通じて、自身の中国語が通じる喜びを実感し、さらに学習意欲が高まった。特に、現地の学生とキャリアについて話し合う機会があり、彼らの考え方や価値観に触れることで、単なる語学力の向上だけでなく、異文化に対する理解も深まった。この経験から、将来的にはより長期のプログラムに参加し、現地の社会や文化により深く関わりたいという気持ちが強まった。

浙江大学のキャンパスは広大で、出発前に考えていたよりも学生の活気に満ちていた。現地の学生のカリキュラムや自習の習慣には驚かされ、イノベーションを生み出す活力の源泉に触れた気がした。また、授業のない時間には杭州市内を探索し、歴史的な名所や商業地区を訪れた。これらの経験は、杭州の古都という側面とイノベーション基地という側面とがどのように共存しているかを肌で感じる貴重な機会となった。特に印象的だったのは、現地の学生が非常に勤勉で、将来に対する明確なビジョンを持っていることだった。彼らとの会話からは、中国の急速な発展と競争の激しさが伝わり、自分自身のキャリアについても考えるきっかけとなった。

プログラム内容については、語学授業と文化交流がバランスよく組み込まれていたと考える。中国語の授業では、中国語能力を習熟度別で重点的に鍛えることができた。午後は杭州についてのプログラムや現地学生とのディスカッションが行われ、専門的な話題についても中国語で議論する機会があった。このようなプログラム構成により、語学力だけでなく、中国語や英語でのコミュニケーション能力も向上させることができた。また、浙江大学の教授陣や学生スタッフのサポートが手厚く、初めての海外留学ではあったが、不安なく過ごすことができた。

もともと国際的な仕事に興味があった私にとって、今回の留学を通じて、特にアジアを舞台にしたキャリアに関心が強まった。中国の学生と話す中で、彼らがグローバルな視点を持ち、海外との関わりに強く問題意識を抱いていることを知り、自分も日本と中国、あるいは他のアジア諸国をつなぐ役割を担いたいと思うようになった。また、短期間でも現地で得た人間関係は今後の進路選択において糧としたいと考えている。今後は、より専門性を高めるために、中国語のさらなる習得に加え、日中の関係史や貿易に関する知識も深めていきたいと考えている。